



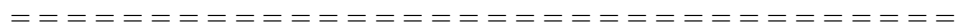
地域日本語支援ニュース こだま 第312号

2017.2.9



★—メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます—★

【地域日本語支援ニュース こだま】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。



■ともに生きる

だれもが安心して医療を受けられる社会をめざして

高坂富美子

今回は、外国人が日本で病気やけがをし、医療機関を受診する際に、言語面でサポートする活動を紹介します。高坂富美子さんは、ポルトガル語とスペイン語の通訳ガイドの資格を取得し、その活動経験もありますが、さらに医療通訳としての特別な研修を受けて、研鑽を積んでいらっしゃいます。

◇医療通訳の養成と派遣を行う「MIC かながわ」

「MIC（ミック）かながわ」は、神奈川県を中心に医療通訳ボランティア活動を行っている NPO 法人です。「ことばの壁」は、病気やけがで治療を受けなければならなくなったとき、より深刻なものとなります。日本で暮らす多くの外国籍の方が、この「ことばの壁」のために適切な医療を受けることができず、中には命にかかわる事態も生じていました。「同じ人間でありながら、ことばが違うだけでこのようなことがあってはならない。人種・国籍・文化に関わらず、だれもが安心して医療を受けられるような社会にしなければならない」。このような強い思いを共有する外国籍住民などによって、主として、医療通訳の養成と派遣を行う「MIC かながわ」は、生まれました。この思いは、「MIC かなが

わ」の原点であり、理念の源です。

◇多言語に対応する通訳派遣システム

神奈川県内の協定医療機関から依頼をうけた「MIC かながわ」事務局のコーディネーターが、医療通訳の適性、能力を考慮して、ケースに適した通訳を派遣しています。通訳に関しては、厳しい選考を通じて登録され、その後も継続的に研修を受けます。新人通訳者研修、現任者研修、言語別の月度勉強会があります。

また、派遣された病院で問題が生じたときは、通訳は速やかにコーディネーターに連絡し、病院とのきめ細やかな連携を実現しています。

「MIC かながわ」では、一般通訳派遣も行っています。2016 年 11 月現在、対応可能な言語は、中国語、タガログ語、ポルトガル語、スペイン語、ベトナム語、英語、タイ語、韓国・朝鮮語、カンボジア語、フランス語、ドイツ語、ロシア語、インドネシア語、ルーマニア語、ベンガル語、アラビア語、ミャンマー語、ヒンディー語、ネパール語、ウルドゥー語、トルコ語、リトアニア語です。うち、医療通訳の対応言語は 12 言語ですが、必要な言語については都度お問い合わせください。

◇伝えたい、健康保険や福利厚生制度

私自身、現在病気のため活動を休止していますが、以前はスペイン語の通訳ボランティアをしていました。私には娘が二人いますが、長女はペルー生まれ、次女は日本生まれです。長女の出産のときは初めての出産で、とても不安なうえ、言葉の違いの壁がありました。そんな経験もあり、南米の方に病院で安心して受診してもらえるよう、おてつだいたいと思い、ボランティアになりました。医療に関する言葉は、専門的で、難しいので、依頼されたケースは下調べをします。

実際に通訳をしてみると、病気の言葉以外にも、日本の健康保険について説明が必要なことがよくありました。外国人だから、健康保険に入れないと思っている方が多いのです。日本で働く外国人の方が、日本の福利厚生について、知らないと、困ることがたくさんあります。仕事上のけがなら、労災の認定をうけるかもしれません。「ありがとう、助かった!」と言われると、とても、嬉

しいです。

【MIC かながわ】について

<https://mickanagawa.web.fc2.com/haken.html>
